

笑顔の大切さ

大阪女学院大学 2年 遠藤 響子

私は、国際協力に関して興味を持っていたがこんなにもまた現地に行き、自分にできることをしたいと思えることができた。

それは今年の夏、スタディーツアーの一環としてミャンマーに行くことができた。ミャンマーの人々と初めて触れ合い、私の心は大きく揺さぶられた。大人も子供も、沢山辛いことを抱えながらも、私達と話したり遊んだりし、沢山の笑顔を見せてくれた。その笑顔に私は感動するばかりであった。

言葉が通じなくても一緒に楽しめる、そこには笑顔があれば良い、というのが今回の発見であった。そしてこの経験を機に、国際協力と何を掛け合わせたら、人々の笑顔を増やすことができるであろうか、と考えた末、思いついたのが「国際協力とお祭りのコラボ」だ。

普段子供たちの遊びといえば、日本などとは違い、外でボールや縄跳びなどして遊んでいる。それはもちろん楽しいが、実際子供たちに話を聞いた際、「大好きな家族と旅行してみたい」そう言っていた。もちろん生活費で精一杯で旅行は難しい、という事実を理解しているうえでの言葉だったため、それを聞いて私は旅行とまではいけなくても、何か非日常的な場を家族や友人と楽しむことはできないか、と考えた。そこでお祭りに焦点を当ててみる。日本においてお祭りは何歳になっても気分が上がる行事である。コラボという機会に乗せて、この素晴らしい文化を浸透させていきたい。

思い描ける絵はお祭りを共有することだ。日本のお祭りといえば、盆踊りやヨーヨーすくいや屋台などが代表的だが、それらの中にその土地の人々を巻き込んで一緒に盛り上がりたりし、笑顔を増やしたい。今回のミャンマー行きの中で7歳という小さい女子に出会い、その子は妹の赤ちゃんの世話をまだ7歳という年でしていた。自分が遊びたくても妹が泣いてしまうから遊べないと我慢していた。そんな子供たちにも、お祭りが特別な時間として与えられ、楽しめる現実があれば、と私は願う。

「国際協力とお祭りのコラボ」。彼女や今回出会えることができた沢山の人々の笑顔を思い浮かべながら、私が考えられる範囲で楽しい時間を共有できたらと考えた。そして笑顔をこれ以上失いたくない、もっと増やしたいと思っている。それは私が彼らの笑顔に感動させられ、元気もらったからだ。